万灯会（献灯祭）メモ

申し込みは少なく、献灯カップの費用はかかる、赤字行事

2021年の年始の段階では、9月よりも8月の方が参加者が多いのではないかという推測を立て、お盆前の8月8日（日）とした。また、名称も「献灯祭」として予定表に載せた。

7／5頃、本年分の案内を送付する作業に着手。昨年、万灯会と同時開催した「秋の特別供養祭」は申込者はほぼゼロだったため、本年の案内からは削除。護摩と万灯会だけにした。

問題は誰に送るかである。一通あたりの費用は100円ほどで、ロウソクの原価は88円である。一霊位500円で承るとして、申し込みが仮に50件あったとしても、250人に送ったらそれだけで消えるし、ロウソクの原価を含めればなお少ない。

もとより収益の見込める行事ではなく、惰性――という表現は好きでは無いが、お寺として何か人目に触れるような行事が必要であるという思いから行っていることである。赤字であるからといってただちに止める理由にはならない。

逆に言えばこれで衆目を引けなければ無意味と言えるのだが。

とにもかくにも、まずは何件送るかを検討せねばならない。

母の案では、節分と千体地蔵流しに申し込みのあった上得意さんのみに送るのはどうかという事であった。確かに妥当な線かもしれない。何人くらいになるのだろうか。

カップローソクは上田技研の4時間もの（税込み88円）が基本サイズで、2021年7月7日の段階では護摩堂に新品200個が在庫としてある。

また、以前に用いていた、より大きなサイズのカップも同日の在庫にして120個ほどある。こちらを使う機会があるかどうかはわからないが。

上田技研に問い合わせたところ、本年も価格は同一。8/8に用いる分には、7月中に注文をすれば大丈夫であると回答を得た。ちなみに2020年は500個で44000円を支払っている。

2021年7月28日、本年分用に4時間ものを300個、上田技研に注文。

ロット数によって単価が変わり、300～400だと一つ税抜き90円、込み99円になって少し割高だが、在庫をいつまでも増やすよりは、今年に数をきっちり数えるのがよかろう。ということで、300で行くことにした。8日当日までには届く予定。